

東北大学医学系研究科・医学部

東日本大震災記録集



2012

東北大学大学院医学系研究科・医学部

# 発行に寄せて

山本雅之

東北大学大学院医学系研究科長・医学部長



昨年3月11日の東日本大震災から1年になります。今回の地震のスケールは恐らく我が国の観測史上最大であり、大震災における宮城、岩手、福島3県沿岸部の津波被害は激烈なものでした。さらに、福島第一原子力発電所の被災・事故が重なって、今回の震災被害は世界史に記録される規模のものとなりました。改めて、被災した皆様にお見舞いを申し上げ、また、ご家族や友人を亡くされた方々に心からのお悔やみを申し上げます。

今回の大震災では、私たち東北大学医学系研究科・医学部も大きな被害を受けました。幸いなことに構成員は全員無事でしたが、昭和40年代に完成した医学部1号館と3号館を中心に、ひび割れ、天井落下、パイプ破損、断水、エレベーター停止などが相次ぎ、停電やガス供給停止と合わせて、研究活動に大きな被害を受けました。研究設備の被害も甚大であり、また、多くの貴重な研究成果や資料も失いました。

大震災の直後から、私たち医学系研究科・医学部の構成員は大学病院と協力して、被災した方々の支援に全力で取り組みました。また、研究活動の早期復旧と再開に向けて、一丸となって取り組んできました。ライフラインが回復するまでの間は、星陵体育館に避難所を設けて、炊き出しも行いました。さらに、教職員・大学院生には早期出勤と復旧・支援活動への協力を、学生にはボランティア活動への参加を呼びかけました。これらの活動には、全国の関係者の皆様から物心両面に渡る暖かいご支援を頂きました。改めて厚くお礼を申し上げます。

私たちは、鎮魂と復旧から、創造的復興のフェーズに進もうとしています。東北地方の復興のためには、その核となる組織が必要であり、私たち医学系研究科・医学部は最先端研究の拠点形成を通して、その役目を引き受ける気概があることを繰り返して表明してきました。本大震災記録集は、私たち東北大学医学系研究科・医学部の震災直後からの活動記録を纏めたものです。多くの困難を乗り越えて創造的復興に向けて活動を始めている様子もご報告させていただきます。

## 東日本大震災記録集編集委員会

---

- 委員長 柴原 茂樹 (分子生物学分野、医学科長、附属図書館医学分館長)  
五十嵐和彦 (生物化学分野、副研究科長)  
進藤千代彦 (臨床生理検査学分野、副研究科長)  
大隅 典子 (発生発達神経科学分野、広報室長)  
舟山 真人 (法医学分野)  
永富 良一 (運動学分野)  
段 孝 (分子病態治療学分野)  
長神 風二 (広報室)  
大場 得志 (医学系研究科総務室長)  
力山 敏樹 (消化器外科学分野、教室員会)  
加賀谷 豊 (東北大学病院卒後研修センター)  
山内 聡 (救急医学分野、東北大学病院)  
八重樫伸生 (婦人科学分野、東北大学病院)

## 目次



発行に寄せて	山本 雅之…	i
東日本大震災概要 東北大学大学院医学系研究科・医学部概要		
平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の概要		2
東北大学大学院医学系研究科・医学部概要		7
第一部 東日本大震災を生きる		
3.11 大震災直後の医学部	柴原 茂樹…	12
基礎医学修練発表会での被災	堀井 明…	15
医学系研究科における東日本大震災の記憶	吉田 隆幸…	17
東北大学大学院医学系研究科・医学部災害対策本部の記録	段 孝(監修)…	22
第二部 奮闘 教育研究の現場を取り戻す		
医学系研究科・医学部		62
医学部医学科		64
保健学科・保健学専攻		67
医学部保健学科		70
大学院医科学専攻		72
大学院障害科学専攻		73
大学院保健学専攻		75
事務部教務室		76
情報基盤室		87
厚生委員会		89
広報室		92
附属動物実験施設		99
東北大学附属図書館医学分館		110
東北大学保健管理センター		117
東北大学病院		120
東北大学病院周産母子センター		139
東北大学病院卒後研修センター		142

### 第三部 貢献 社会と共に

遺体検案のボランティア活動について	舟山 真人…	150
遺体検案に携わって	石田 和之…	151
遺体検案の中で	林崎 義映…	151
保健学専攻看護学コースによる震災復興・被災者支援	宮下 光令…	152
地域保健支援センターの活動について	辻 一郎…	153
原発事故への対応	千田 浩一…	157

施設内にとどまることなく、県内、県外、他機関との連携と調整へ〔救急医学〕… 163

東日本大震災における感染症マネジメント

—感染症診療・感染症対策の総合的支援活動〔感染制御・検査診断学〕……………	165
東日本大震災後の感染症対策及び保健衛生システム復興への貢献〔微生物学〕……………	166

総合診療部の震災後対応〔総合医療学〕…………… 170

東日本大震災における心不全の増加

—被災後の心不全発症予防の重要性—〔循環器内科学〕……………	171
震災における透析患者の支援〔腎・高血圧・内分泌学〕……………	172
救急患者を少なくするために—被災後の糖尿病医療—〔代謝疾患学〕……………	174
支援する側も支援されている〔病態液性制御学〕……………	178
大震災時におけるリウマチ膠原病診療ネットワークの構築〔血液免疫病学〕……………	179
人工呼吸器使用患者の広域医療搬送〔神経内科学〕……………	180
てんかん診療への震災緊急対応と長期展望〔てんかん学〕……………	183
被災地への精神科治療薬供給の支援活動〔精神・神経生物学〕……………	185
被災地の精神医療・精神保健支援活動〔精神・神経生物学〕……………	187
東日本大震災とストレス関連疾患：行動医学と心療内科の活動から〔行動医学〕…	188
リハビリテーション支援と「災害リハビリテーション」の必要性〔内部障害学〕…	191
リハビリテーションの力〔肢体不自由学〕……………	194

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震後の活動〔皮膚科学〕…………… 195

形成外科の震災対応—褥瘡患者を中心として—〔形成外科学〕…………… 203

東日本大震災発災後の肝胆膵外科／胃腸外科としての対応〔消化器外科学〕…………… 205

東日本大震災後の東北大学心臓血管外科の対応〔心臓血管外科学〕…………… 207

東日本大震災時の泌尿器科的対応〔泌尿器科学〕…………… 209

イスラエル軍耳鼻科医との交流、耳鼻科・皮膚科・眼科合同巡回診療、

ネットによる情報共有〔耳鼻咽喉・頭頸部外科〕…………… 210

放射線科医の大震災対応〔量子診断学〕…………… 212

東日本大震災に際しての放射線治療科の活動報告〔放射線腫瘍学〕…………… 213

基礎研究者による避難所健診〔免疫学〕…………… 214

災害保健医療支援室と“なんでもやります隊”の活動〔国際保健学〕	216
国際看護管理学分野の災害支援活動〔国際看護管理学〕	217
東日本大震災後のボランティア活動〔精神看護学〕	218
ボランティア活動報告〔地域ケアシステム看護学〕	221
震災後の看護支援活動〔がん看護学〕	225
老年保健看護学分野における震災復興活動〔老年保健看護学〕	225
東日本大震災における音楽音響医学分野の取組み〔音楽音響医学〕	226
—	
公式ウェブサイト ( <a href="http://www.med.tohoku.ac.jp/">http://www.med.tohoku.ac.jp/</a> ) にみる社会貢献	227
東日本大震災における教室委員会の取組み	238
伝える使命、継ぐ喜び 〔東北ジャーナル刊行会 (Tohoku University Medical Press)〕	239

#### 第四部 手記、記憶

震災雑記	大場 得志	246
星陵体育館避難所の一週間	永富 良一	246
星陵地区避難所：留学生の状況なども含めて	牛 凱軍	250
震災後の1週間	柿崎真沙子	252
星陵体育館での炊き出しについて	栗島 宏明	253
地震について	大久保宗太郎	254
長陵新聞：3・11震災特集号の発行	田代 亮介	255
2度の震災の経験から、新しい日本の復興を目指して	清元 秀泰	257
雨ニモ、風ニモ、津波ニモ負ケズ	八重樫伸生	267
東日本大震災と東北大学名取艇庫	石井 誠一	275
力を合わせて歩むこと	大隅 典子	277

第五部 東北大学大学院医学系研究科の取組み	山本 雅之	280
-----------------------	-------	-----

第六部 資料編		288
---------	--	-----

御支援への御礼		332
---------	--	-----

おわりに	柴原 茂樹	334
------	-------	-----

## 凡 例

1. 本記録集の記事提供者、著者は多岐にわたる。表記は原稿通りとし、見出し・強調・区切りなどの補助符号は、編集の統一を図った。
2. 東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト (<http://www.med.tohoku.ac.jp/index.php/article/show/id/922>) 掲載情報を多く取りあげている。編集の為に見出し処理などを行ったが、文章及び表記は可能な限り原本を再現するように心がけた。
3. 図、表、写真は、見開き頁（左頁＋右頁）の中で、参照番号に対応する表記をした。レイアウト、文章量との関係で直前頁、直後頁に配置したものもある。
4. 第一部は、重層をなす事象の全像を把握することを意図し、見開き頁で一単位の紙面構成とした。左側から順に、時間軸、本文、図・表・写真・資料を表記した。
5. 第六部の「主な資料」は、実際に使用された資料原本を再現した。